

各位

上場会社名	株式会社 ナガワ
代表者	代表取締役社長 高橋 修
(コード番号)	9663)
問合せ先責任者	常務取締役管理本部長 矢野 範行
(TEL)	048-648-6111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,050	820	870	450	27.51
今回発表予想(B)	9,500	0	50	20	1.22
増減額(B-A)	△1,550	△820	△820	△430	
増減率(%)	△14.0	△100.0	△94.3	△95.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	10,790	985	1,036	535	32.81

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,200	1,100	1,200	620	37.90
今回発表予想(B)	19,000	200	300	160	9.78
増減額(B-A)	△3,200	△900	△900	△460	
増減率(%)	△14.4	△81.8	△75.0	△74.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	21,042	1,141	1,248	641	39.48

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	11,050	780	830	430	26.29
今回発表予想(B)	9,500	0	50	20	1.22
増減額(B-A)	△1,550	△780	△780	△410	
増減率(%)	△14.0	△100.0	△94.0	△95.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	—	—	—	—	—

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,200	1,000	1,100	570	34.85
今回発表予想(B)	19,000	200	300	160	9.78
増減額(B-A)	△3,200	△800	△800	△410	
増減率(%)	△14.4	△80.0	△72.7	△71.9	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	21,040	1,270	1,400	737	45.37

修正の理由

(1)第2四半期累計期間の業績予想
連結

景気の先行きについては、輸出や鉱工業生産に底打ちの兆しが見えるものの設備投資を促すような力強さに回復するにはなお時間がかかると予想され、住宅投資についても雇用悪化や個人所得の低迷によりしばらくは低水準で推移するものと思われま。

このような経営環境のなか、主力のユニットハウス事業は、レンタルについては同業他社が設備投資を見送るなか積極的に投資を行い、単価の下落を稼働棟数増と備品や付帯サービスの営業強化で前年同期並みの売上高を確保いたしました。販売においては企業が設備投資に一層慎重となったことや個人が所得の低迷により比較的高額な財の購入を控えたことなどから、当初予想を下回る見込みです。

また、利益につきましては、レンタル単価の下落や利益率の高い中古販売の減少による売上高の減少が、原価及び経費の削減を上回るため当初予想を大きく下回る見通しです。

建設機械レンタル事業は、北海道南部の公共工事が補正予算の執行に伴い堅調に推移するなか、地域に密着した営業活動の強化と資産効率の向上に努めた結果、レンタルにおいては前年を上回る売上高を確保しましたが、海外の中古建設機械市場の低迷により利益率の高い中古建設機械販売が当初予想を大幅に下回る見込みです。

建設資材卸事業は、北海道南部の堅調な公共工事の執行によりほぼ当初予算どおりに進捗しております。

このような状況を勘案して当第2四半期累計期間の売上高、利益を下方修正いたしました。

なお、弊社では、このような急激な環境変化に対応できる体質への変革を目指し、全社を挙げての迅速なる人件費や運送費、管理費など諸経費の削減に取り組む一方で、一層のシェア拡大と新市場開拓に向けて営業力強化と製造原価の削減及び開発能力の向上に努めております。

個別

上記に記載した理由と同様の理由により、前回発表を修正いたします。

(2) 通期業績予想

連結

通期の見通しにつきましても、第2四半期と同様の理由から売上高、利益の下方修正をいたします。

個別

上記に記載した理由と同様の理由により、前回発表を修正いたします。

(注) 当該予想は、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより当該予想と乖離する結果となりうることをご承知おきください。

以 上